

地デジ移行後の視聴行動に関する
マーケティングデータ

朝日大学マーケティング研究所

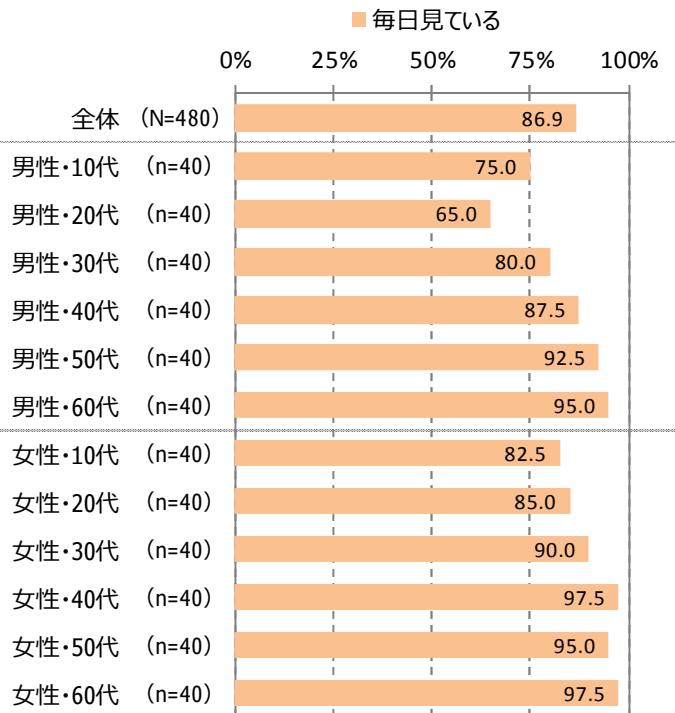
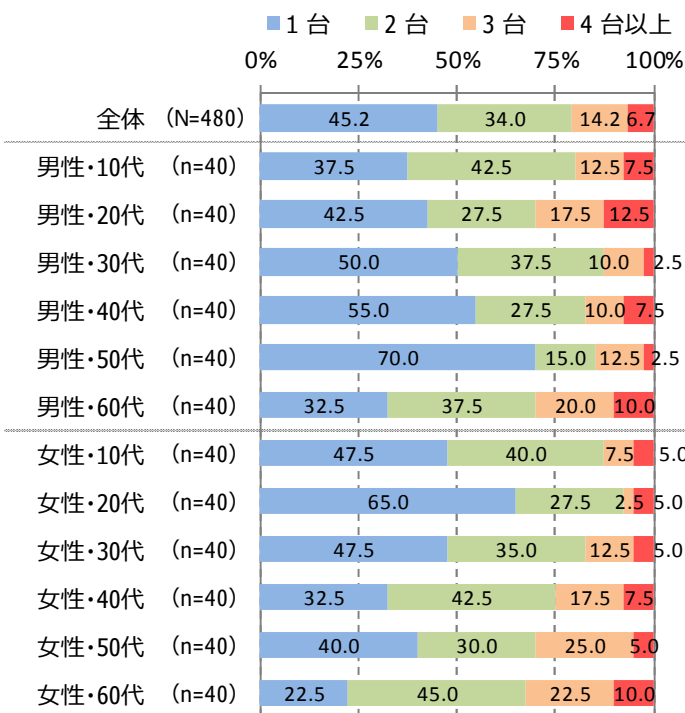
調査概要

- 調査方法 Webアンケート
- 調査期間 2011年8月30日（火）～8月31日（水）
- 調査対象 首都圏在住の13歳～69歳男女で、以下の条件にあてはまる人
 ・自宅に地上波デジタル対応のテレビがある
 ※ただし、テレビをまったく見ない人は除く
- 有効回答 合計480名（均等割付）

年代	男性	女性
13～19歳	40名	40名
20～29歳	40名	40名
30～39歳	40名	40名
40～49歳	40名	40名
50～59歳	40名	40名
60～69歳	40名	40名
合計	240名	240名

参考：自宅で利用しているテレビの台数

参考：テレビ番組を毎日見ている割合

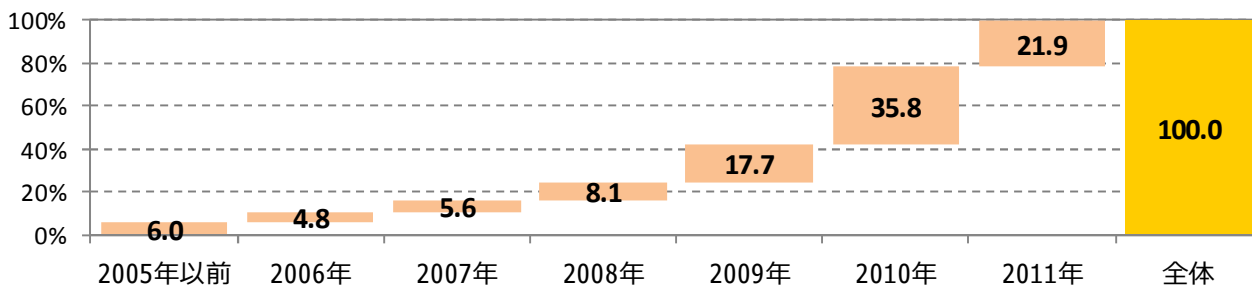


1. 地上波デジタル放送対応時期と3Dテレビ

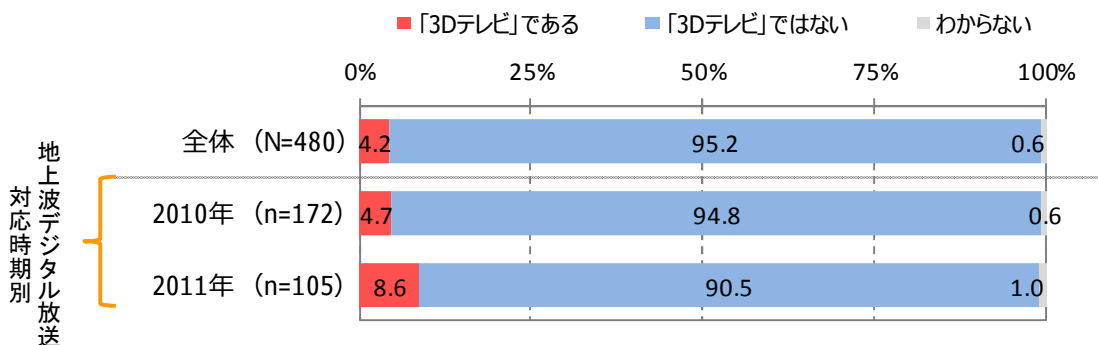
2010年・2011年で、57.7%の家庭で地デジ対応が進んだ。

- 「自宅で主に利用しているテレビが地上波デジタル放送対応になった時期」は、「2010年」(35.8%)が最も高い。「2011年」(21.9%)と合わせると、57.7%となる。
- 「3Dテレビ」の所有率は全体の4.2%である。地上波デジタル放送対応時期別にみると、2011年に対応した人の「3Dテレビ」所有率は8.6%。これは「3Dテレビ」所有者全体の45%にあたる。
- サンプル数が少なく、参考値ではあるが、「3Dテレビ」所有者の半分は「3Dテレビ向け」のコンテンツを未だ利用したことがない。

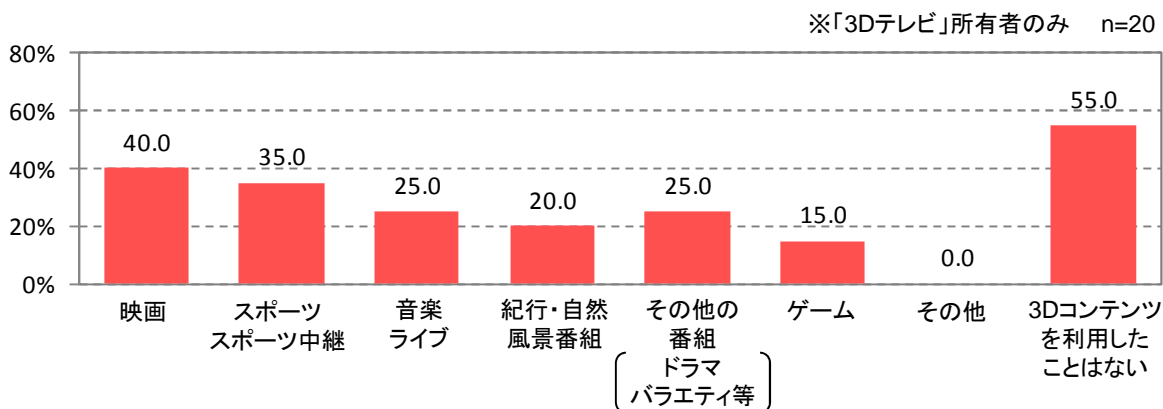
自宅で主に利用しているテレビが地上波デジタル放送対応になった時期



自宅で主に利用しているテレビは「3Dテレビ」か、どうか



参考値:「3Dテレビ」で見ているコンテンツ(複数回答)



2. テレビ番組の録画方法と録画頻度

録画機能内蔵テレビが普及し、録画環境が進展。テレビ番組を「ほぼ毎日録画している」人は全体の3割。

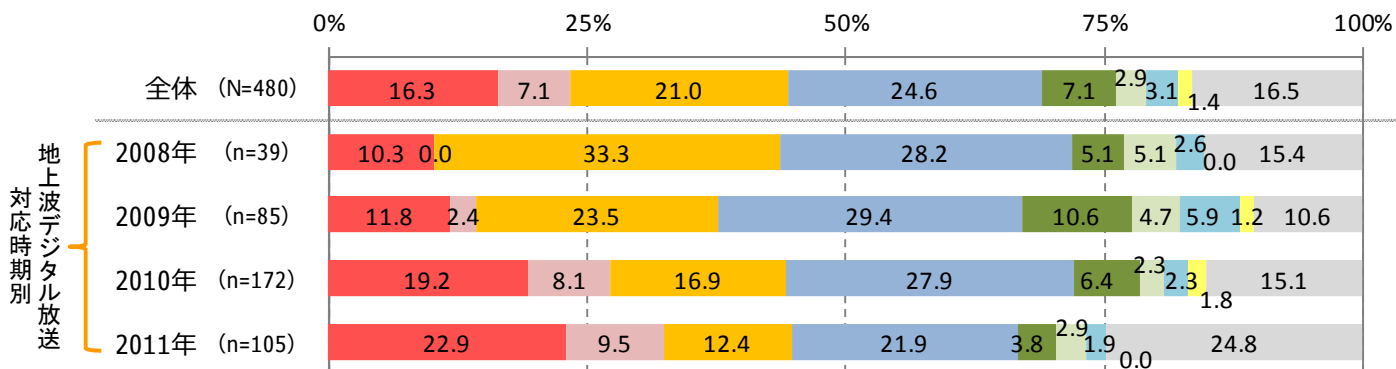
■「テレビ番組を録画するのに主に使用している機器」をみると、全体では「Blu-ray レコーダー」(24.6%)と最も多い。地上波デジタル放送対応時期別にみると、最近、地デジに対応した人ほど録画機能内蔵テレビを利用していることがわかる。その代わりに「HDDレコーダー」は利用されなくなってきている。

■テレビ番組を録画する人の最近3ヶ月間の録画頻度をみると、全体の35.4%は「ほぼ毎日録画している」。これは、録画しない人も含めた全サンプル数の29.6%にあたる。

■性・年代別に最近3ヶ月間の録画頻度をみると、「ほぼ毎日録画している」は女性の30代以降に多い。

テレビ番組を録画するのに主に使用している機器

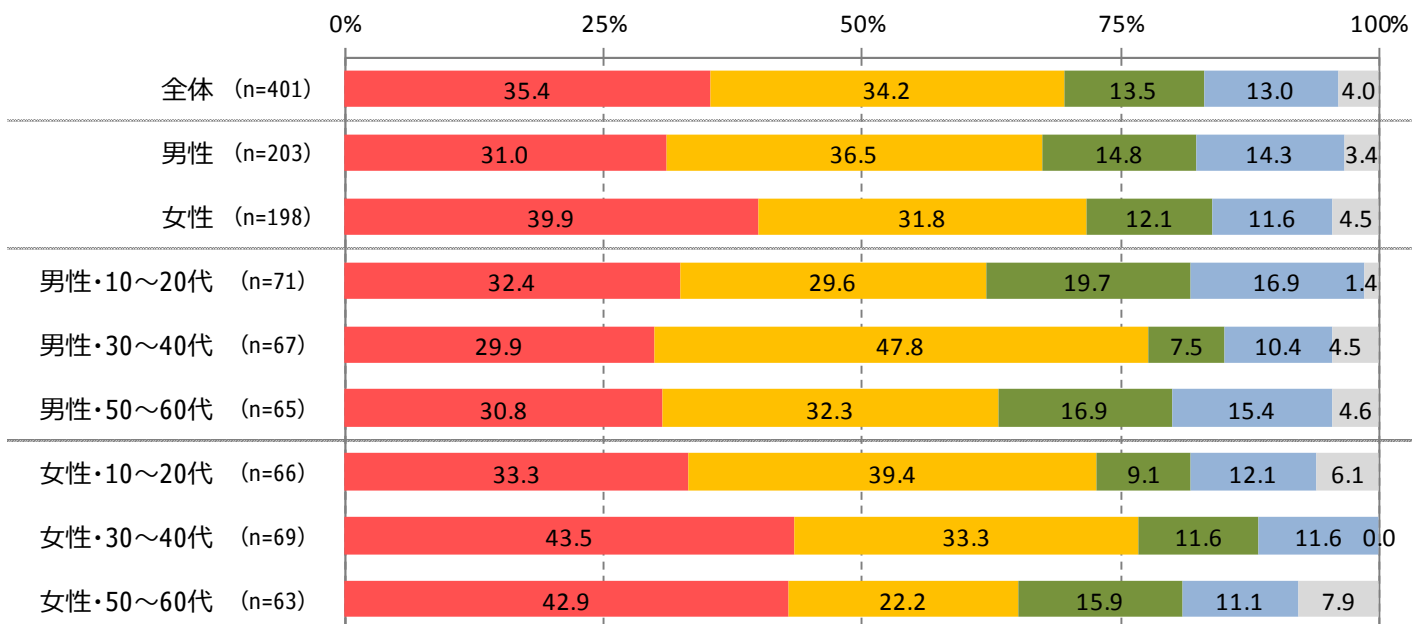
- 1. 録画機能内蔵テレビ(HDD 内蔵)
- 2. 録画機能内蔵テレビ(外付けHDD)
- 3. HDD レコーダー
- 4. Blu-ray レコーダー
- 5. DVD レコーダー
- 6. VHS レコーダー
- 7. パソコン
- 8. その他
- 9. テレビ番組の録画はしない



最近3ヶ月間のテレビ番組の録画頻度

※テレビ番組の録画をする人のみ

- 1. ほぼ毎日録画している
- 2. 週に数回録画している
- 3. 週に1回くらい録画している
- 4. たまに録画する程度
- 5. 最近3ヶ月は録画していない



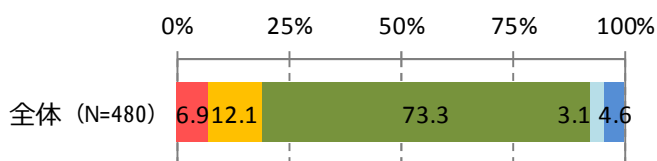
3. 地上波デジタル放送対応による視聴状況の変化(1)

地デジ対応によってテレビ番組録画頻度は増え、ビデオやDVD (Blu-ray)をレンタルする頻度は減った。

- 「テレビ視聴時間」は微増している。
- 「家族でのテレビ視聴」は微増している。
- 「テレビ番組録画頻度」は、録画機能内蔵テレビの普及などで録画しやすくなっていることで、増加傾向(「増えた」が14.0%、「やや増えた」が16.9%)にある。
- 一方で、「ビデオやDVD (Blu-ray)をレンタルする頻度」は、減少傾向(「減った」が11.5%、「やや減った」が9.4%)にある。
- 地デジ対応をきっかけに「ケーブルテレビや衛星放送、インターネットTV等」に加入した人は、全体の8.8%である。

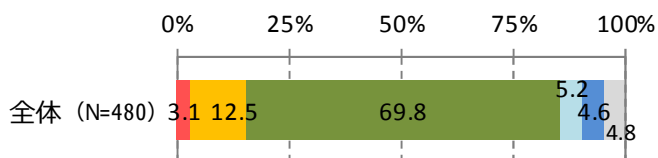
テレビ視聴時間

- 1. 増えた
- 2. やや増えた
- 3. 変わらない
- 4. やや減った
- 5. 減った



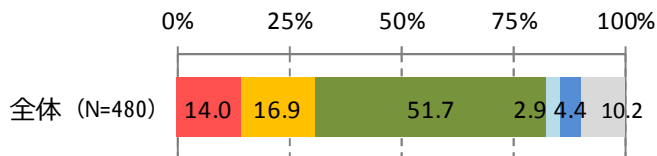
家族でのテレビ視聴

- 1. 増えた
- 2. やや増えた
- 3. 変わらない
- 4. やや減った
- 5. 減った
- 6. 一人暮らしである



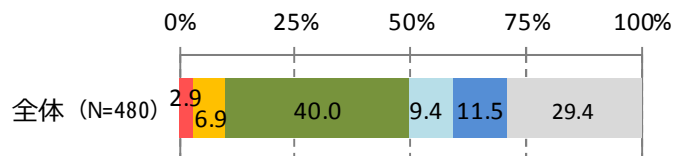
テレビ番組録画頻度

- 1. 増えた
- 2. やや増えた
- 3. 変わらない
- 4. やや減った
- 5. 減った
- 6. 録画することはない



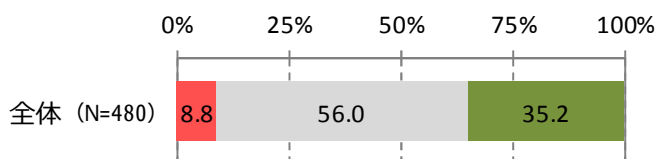
ビデオやDVD (Blu-ray)をレンタルする頻度

- 1. 増えた
- 2. やや増えた
- 3. 変わらない
- 4. やや減った
- 5. 減った
- 6. レンタルすることはない



ケーブルテレビや衛星放送、インターネットTV等への加入

- 1. 加入するようになった
- 2. 加入していない
- 3. もともと加入していた

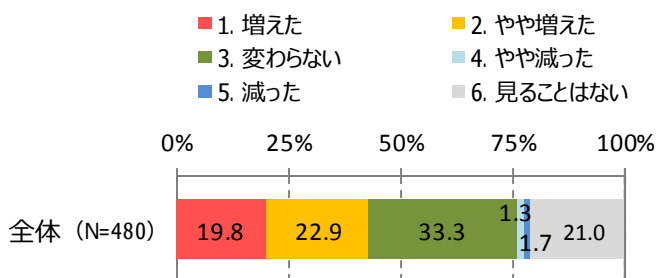


4. 地上波デジタル放送対応による視聴状況の変化(2)

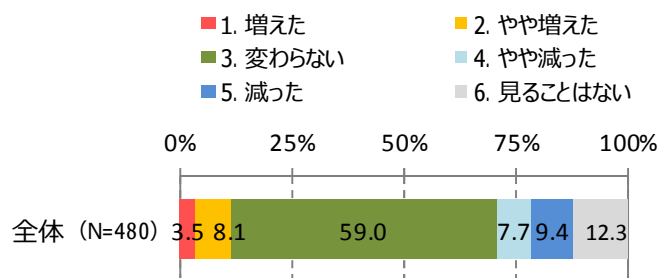
EPG(電子番組表)を見る頻度は増えている。テレビ情報誌や新聞のテレビ欄を見る頻度はあまり変わっていない。

- 「EPG(電子番組表)を見る頻度」は、「増えた」(19.8%)、「やや増えた」(22.9%)と大幅に増えている。
- 「テレビ情報誌や新聞のテレビ欄を見る頻度」は、ほぼ変わっておらず、EPGとは棲み分けがされていると考えられる。
- 「ザッピング(チャンネルまわり)する頻度」は若干増えている。アナログ放送に比べ、チャンネル切り替えが不便になっているため、ザッピング機会が減ると考えられるが、その影響はみられない。CS放送への加入や、無料のBS放送やローカル局のチャンネルが映るようになったことで、ザッピングする機会が増える効果のほうが強く出ている可能性が高い。(自由回答抜粋参照)
- 「見たい番組がなくてもなんとなくテレビをつけておくこと」は減っているが、震災後の節電意識の影響が大きいと考えられる。

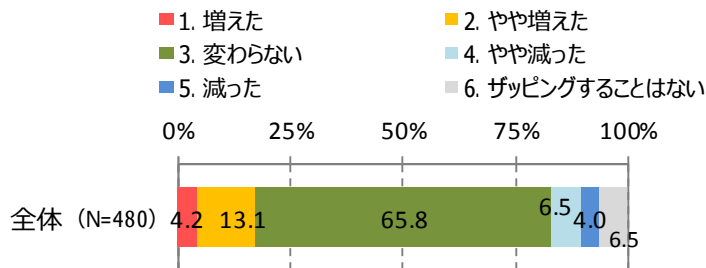
EPG(電子番組表)を見る頻度



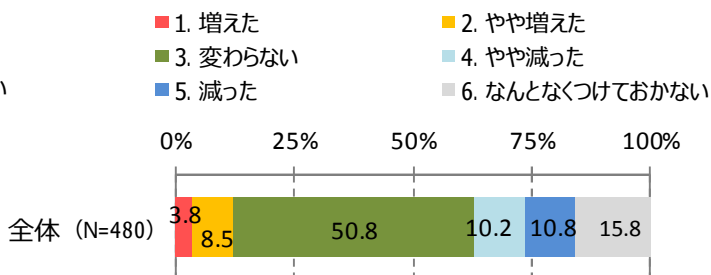
テレビ情報誌や新聞のテレビ欄を見る頻度



ザッピング(チャンネルまわり)する頻度



見たい番組がなくてもなんとなくテレビをつけておくこと

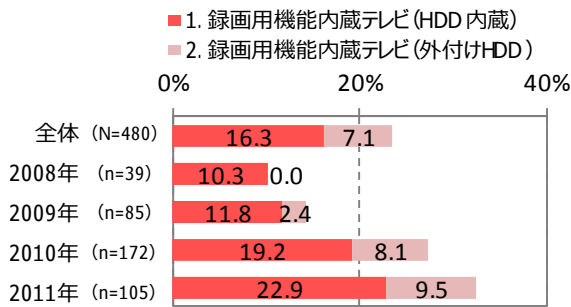


その他、テレビ視聴環境の変化: 自由回答からの抜粋

- 男性・27歳: 番組が表示されるまでの時間がアナログに比べて長過ぎてちょっとイライラする。
- 男性・35歳: チャンネル数が増えたので、変える頻度が増えた。
- 男性・38歳: 追っかけ再生をよく利用するようになった。
- 男性・51歳: CS放送に加入してから、地上波の番組はほとんど見なくなった。
- 男性・65歳: 電子番組表で一週間先の分まで録画する様になりました。
- 女性・25歳: 地上波から切り替えた時に見られるチャンネルが増えた。
- 女性・37歳: 天気予報などのデータ放送を見るようになった。
- 女性・44歳: tvkや千葉テレビ等を視聴する様になった。TV雑誌の番組表を見なくてもTVの番組表で選べる視聴予約も出来るので見忘れる事も無くなり、更に番組情報も見られるのでとても便利になりました。
- 女性・51歳: テレビを1台、増やしたので、好きな番組をみられるようになった。
- 女性・63歳: 見たい映画がないか探すようになった。

結果① 録画機能内蔵テレビの普及で、テレビ番組の録画がより簡単で身近なものになっている

主な録画方法(地上波デジタル放送対応時期別)、抜粋



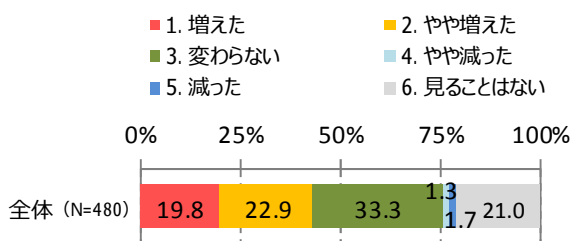
地デジ化によるテレビの買い換えは、この2年で劇的に進んだ。録画機能内蔵テレビの普及で、消費者のテレビ番組録画環境は、より簡易で身近なものになっている。

全体の3割は、ほぼ毎日テレビ番組を録画しており、今まで見られなかった平日の仕事中の時間帯や深夜の番組を録画したり、「とりあえず録画しておく」ということが当たり前になっているようだ。

逆に、ビデオ・DVDレンタルは録画環境の進展の影響で減少しているようだ。

結果② EPG(電子番組表)の利用が増えているが、既存媒体への影響は小さい

地デジ対応によって、EPGを見る頻度はどうなったか

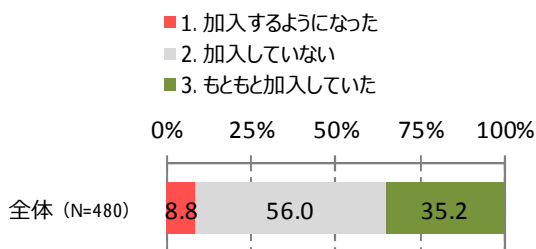


EPGを利用する頻度は大幅に増えている。録画環境の進展を強くサポートしている様子が自由回答から伺えた。

一方で、EPGと代替関係にあると考えられるテレビ情報誌や新聞のテレビ欄を見る頻度は、ほとんど変わっておらず、EPGとは棲み分けがされている。

結果③ 有料放送への加入以外にも、BS放送やローカル局が視聴可能になり、多チャンネル化が進んでいる

地デジ対応をきっかけに、ケーブルテレビや衛星放送、インターネットTV等へ加入したかどうか



地デジ対応をきっかけにケーブルテレビや衛星放送、インターネットTV等に加入した割合は高いとはいえない。

しかし、地デジ対応がきっかけでBS放送やローカル局のチャンネルも見られるようになり、有料放送以外にも多チャンネル化が進んでいるようである。これがザッピング頻度の増加に寄与している可能性が高い。

結果から推測される仮説

■2010年と2011年で家庭の地デジ対応は大幅に進み、消費者のテレビ視聴環境は大きく変化した。特に録画環境の進展が調査結果として現われた。テレビ録画機能の新規導入、あるいは操作の簡易化による録画の増加は、テレビ視聴における「タイムシフト視聴」をより促進させている。同時に、ビデオ・DVDレンタルなどの周辺領域におけるコンテンツ利用行動にまで影響を及ぼし始めている。また、録画環境の変化はEPG(電子番組表)の利用頻度を高めており、チャンネルスイッチの行動プロセスにも変化をもたらす可能性がある。いち早く視聴者の行動変化の兆しを捉え、柔軟に対応していくことが重要である。

■地デジ対応テレビはBS/CSチューナーが内蔵されているものが多く、地デジ対応をきっかけに無料のBS放送が見られるようになったり、UHFアンテナへの変更によりローカル局が見られるようになったりと、有料放送以外にも多チャンネル化が進んでいる。これによって、特に全国放送であるBS放送の広告媒体としての価値は高まっていくと考えられる。

トピックスリサーチ

地デジ移行後の視聴行動に関する
マーケティングデータ

発行日 2011年 9月 9日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp